

五所川原第一高等学校

「一高生が考える青森県の未来予想図」



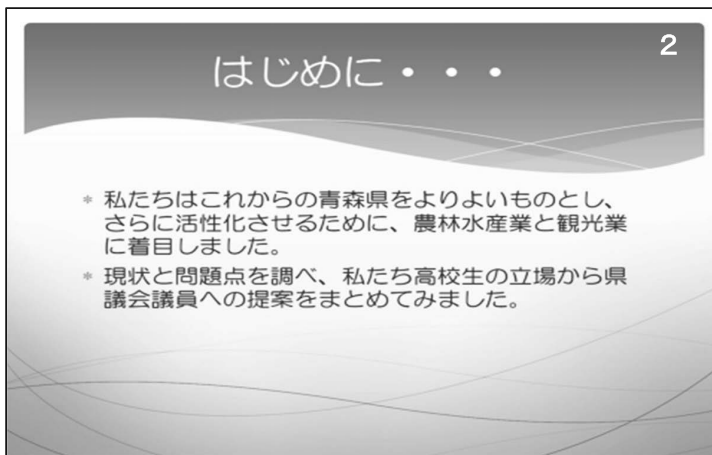
平成30年度高校生模擬議会

五所川原第一高等学校

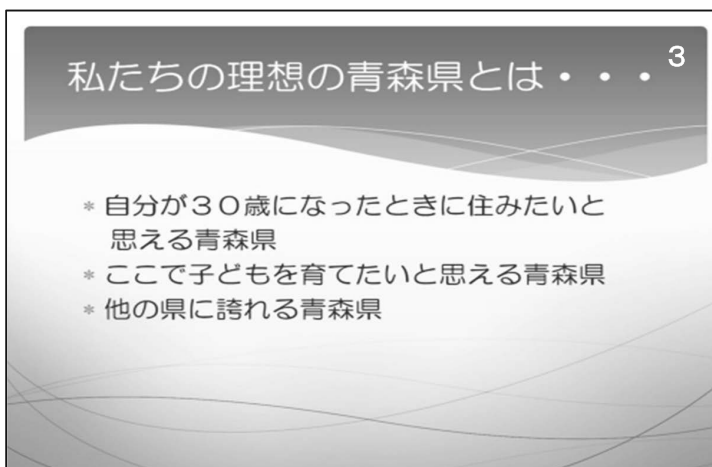
平成31年2月5日(火)



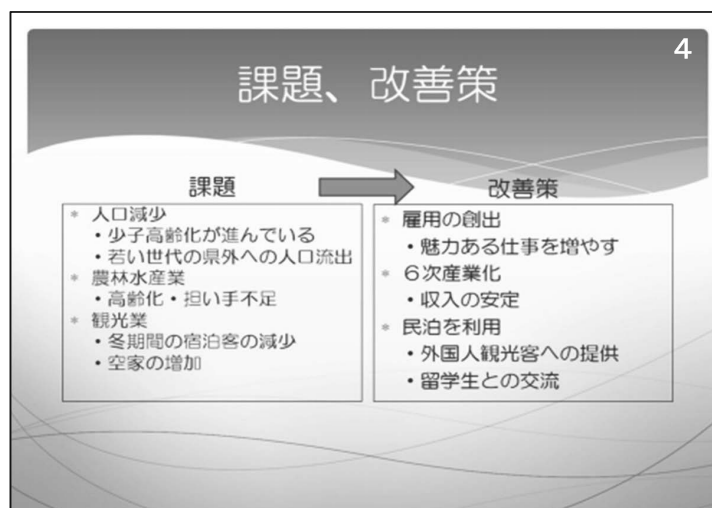
私たちの発表内容は、「一高生が考える青森県の未来予想図」です。(1)



まずはじめに、私たちはこれからの青森県をよりよいものとし、更に活性化させるために農林水産業と観光業に着目しました。現状と問題点を調べ、私たち高校生の立場から県議会議員の皆さんへの提案をまとめてみました。(2)



私たちの理想の青森県とは、自分が30歳になったときに住みたいと思える青森県、ここで子どもを育てたいと思える青森県、ほかの県に誇れる青森県です。(3)



そこで青森県の課題と改善点を考えました。まず人口減少についての課題は、少子高齢化が進んでいること、若い世代の県外への人口流出があります。その改善策は、雇用の創出、魅力ある仕事を増やすことです。

次に農林水産業の課題は、高齢化・担い手不足にあります。改善策は農林水産業はその年によって収穫量が変わるので、収入が安定しません。その安定を確立することが必要だと思います。

最後に観光業の課題は、冬期間の宿泊客の減少、空き家の増加です。改善策は民泊を利用し、外国人観光客への提供や留学生との交流をすることです。(4)

現状 5

- * 全国トップクラスの農産物生産量
⇒農産物生産量全国第7位
- * 農業の6次産業化への取り組み
- * 外国人宿泊観光客の増加
⇒特にアジア圏の観光客が増加

↓

青森県は、農業も観光業も強い！
この2つを組み合わせればさらに活性化できるのでは？！

今の青森県の現状ですが、全国トップクラスの農産物生産量は何と第7位です。

次に外国人宿泊観光客の増加、特にアジア圏の観光客が増加しています。その中でも台湾の観光客が一番多いです。

青森県は農業も観光業も強い、この2つを組み合わせれば、更に活性化ができるのではないかと思います。(5)

これができれば・・・ 6

- * 青森県で
 - ・住みたい！
 - ・子育てしたい
 - ・みんなに誇りたい

青森ブランドになるのでは？！

これができれば青森県で住みたい、子育てしたい、みんなに誇りたいということが、青森ブランドになるのではないのでしょうか。(6)

私たちが残したいもの 7

- * りんごと岩木山とお城の風景
- * ねぶたなどの地域の祭り
- * 津軽三味線などの伝統文化
- * 各地域の伝統工芸品
- * 方言など・・・



私たちが残したいものは、りんごと岩木山とお城の風景、ねぶたなどの地域の祭り、津軽三味線などの伝統文化、各地域の伝統工芸品、方言などです。私たちはその中でもりんごを残したいと考え、いろいろなことを調べました。(7)

りんご農家さんに実際に話を聞くと 8

りんごを育て管理するためにかかる費用

- ・ 農薬代が年間約100万！
- ・ その農薬を撤くために使うスピードスプレーは新品だと800万、中古だと5~600万
- ・ 草を刈るための機械に50万
- ・ ガソリン代は年間約30万

合計980万

農家さんはかなりお金がかかる

しかも
りんごが安く、一年間かなりの出費があるため利益が出ない

まずりんご農家さん本人にお話を伺いました。りんごを育て管理するためにかかる費用は、初年度だと機械の購入などで約980万円かかります。次年度からは約180万円かかります。この現状から農家さんはかなりのお金がかかることがわかります。しかもりんご1個1個の値段が安く、1年間にたくさんのお金を出費があり利益が出ません。(8)

農業における課題と解決策 9

- りんご農家は個人経営でやっているから収入が安定しない、だからりんごを育てるところから加工するまでの大きい会社を作る
⇒6次産業化
- 病気にかからない強い品種や温暖化しても育てることができる品種を作る
⇒新ブランドの育成
- 若い人たちがもっと興味を持つようにりんごにかかわる機会を作ってみる
⇒青森県ならではの教育

6次産業化することで 10

りんごの会社を作ることによって

農作業 → 出荷作業 → 販売

会社を作って人材を確保することにより効率よくりんごを育てて販売することができる。そして毎月安定した給料を受け取ることができる。

しかし、人材が足りないと会社を作っても意味がない。
りんご生産者が減少している中でりんごに携わる後継者を増やすためには10～20代がりんご作りの楽しさを学ぶ機会が必要である。

農業に関わる人を増やすために 11

- 農業分野における魅力を若者にアピール
- 6次産業化をさらに促進するために、県や自治体と農家との連携をさらに深める
- 商品開発や販売に携わる企業や人を募集する

観光業との連携が必要！！

りんごが育たない国がたくさんある 12

その中でも

東南アジアの地域

(例) シンガポール

- ✓ 赤道直下で常夏
- ✓ 年降水量が多い順で上位

➤りんごが育たない
➤雪が降らない

農業における課題と改善策は3つあります。1つ目は、りんご農家は個人経営でやっているため収入が安定しない、だからりんごを育てるところから加工するまでの大きい会社をつくる。これが6次産業化です。2つ目は、病気にかからない強い品種や、温暖化に対応できる品種をつくる。これが新ブランドの育成です。3つ目は、若い人たちがもっと興味を持つように、りんごに関わる機会を作ってみる。これは青森県ならではの教育になります。(9)

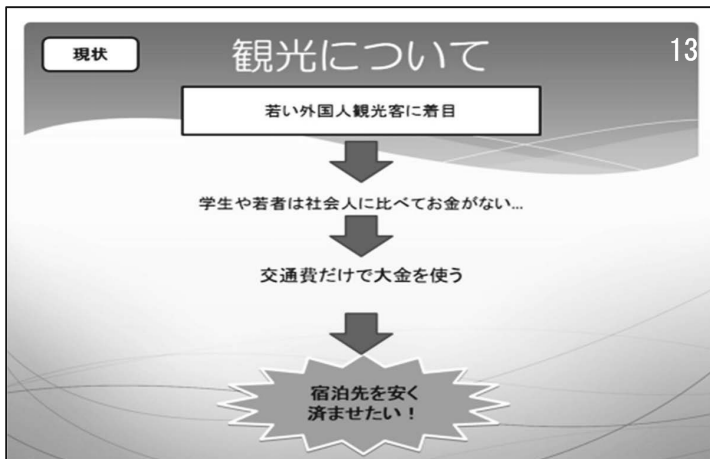
その中で6次産業化に注目しました。6次産業化で農作業から販売までの会社をつかって人材を確保することにより、効率よくりんごを育て販売することができ、そして毎月安定した給料を受け取ることが出来ます。しかしこれは理想論にすぎません。人材が足りないと会社をつくっても意味がありません。りんご生産者が減っている中で、りんごに携わる後継者を増やすためには、10代20代がりんごを作る楽しさを学ぶ機会が必要です。(10)

農業に関わる人を増やすために、農業分野における魅力を若者にアピール。六次産業化をさらに促進するために、県や自治体と農家との連携をさらに深めること。商品開発や販売に携わる企業や人を募集することが必要です。その企業を募集するためには、観光業との連携が必要です。(11)

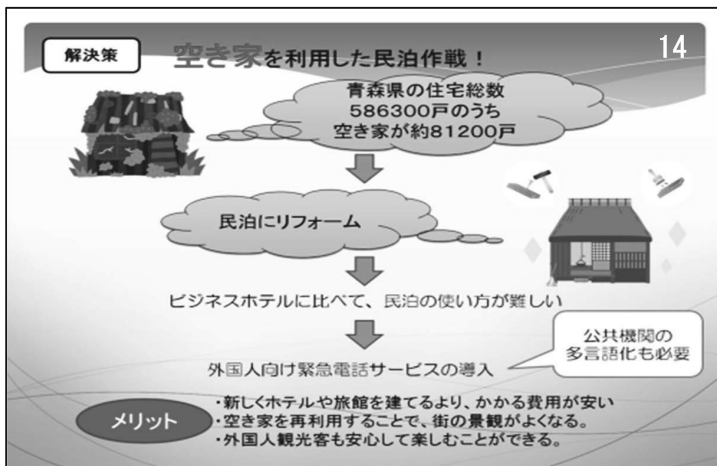
こちらの模造紙をご覧ください。まず、りんごを育てるために必要な栽培条件を、大きく5つ取り上げました。栽培条件1つ目は年平均気温が6～14度であるということです。青森県は年平均気温が10度前後なので適しているといえます。次に2つ目は低温要求時間が1,400時間以上ということです。休眠から目覚めるために一定期間低温にさらされる必要があります。次に3つ目は冬季の最低極温がマイナス25度以上ということです。次に4つ目は昼夜

の温度差が大きいということです。実の引き締まった精度の高いりんごを育てるためにはとても必要な条件です。最後に5つ目は年降水量が少ないということです。雨が多いとつる割れや肥料の養分が流れてしまうという危険性があります。青森県はこの5つの自然条件を全てクリアしています。

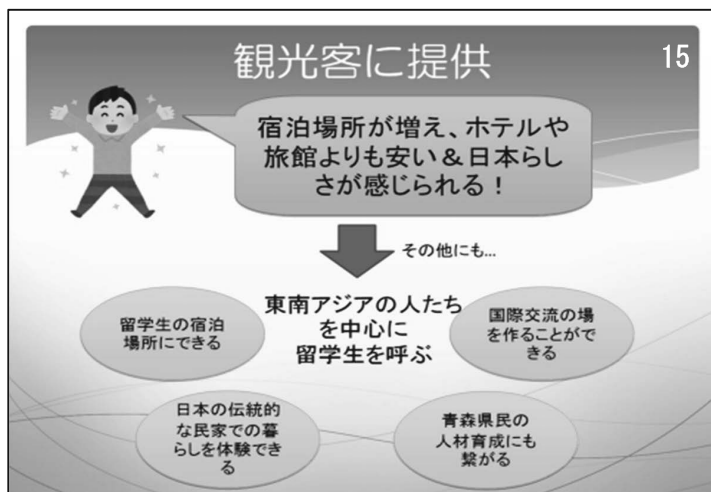
次にスライドをご覧ください。しかし、この自然条件に適していない国が世界にたくさんあることが分かりました。その中でも私たちが着目したのは東南アジアの地域です。東南アジアの地域でシンガポールを例に挙げてみました。シンガポールは赤道直下で常夏であり、また年降水量が多い順で世界上位に入っているということが分かりました。このことから東南アジアの地域ではりんごが育たず、また雪を見たことがない人が多いのではないかと予想しました。(12)



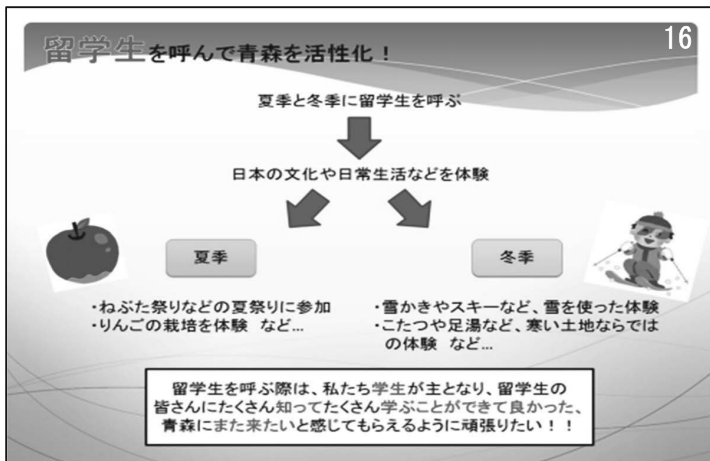
現状として東南アジアの人々の中でも若い外国人観光客に着目してみました。学生や若者は社会人に比べてお金がありません。青森県に来るとしても交通費だけで大金を使うことになります。結果、宿泊費だけでも安く済ませたいと考えます。(13)



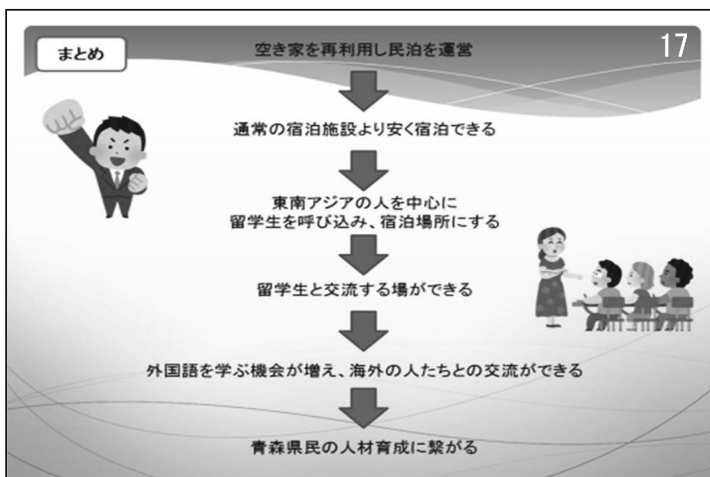
若い外国人観光客に安く、心地よく宿泊してもらいたいと思い、解決策として空き家を利用した民泊作戦を考えました。青森県の住宅総数約58万6,300戸のうち、空き家が約8万1,200戸もあることが分かりました。この空き家をリフォームし民泊にします。外国人にとってビジネスホテルと違い、民泊の使い方が難しいと考える人もいると思います。その解決策としては、外国人向け緊急電話対応サービスの導入があげられます。外国人観光客を増やすうえで、特に必要となるのが公共機関の多言語化であると考えます。空き家を利用した民泊を利用することで、新しくホテルや旅館を建てるよりも掛かる費用が安く済み、外国人観光客にも安心して楽しんでもらえるといったメリットがあります。(14)



この民泊を提供することで観光客も安く宿泊でき、日本らしさを感じることができます。その他にも東南アジアの人たちを中心に留学生を呼ぶことで、民泊を留学生の宿泊場所にできる、国際交流の場をつくることのできる、日本の民家での暮らしを体験できる、青森県民の人材育成につながるなどたくさんあげられます。(15)



留学生を青森県に招くということで具体例をあげてみました。まず夏季と冬季に留学生を募集します。留学生の皆さんには日本の文化や日常生活などを体験してもらいます。青森県の伝統工芸品づくりや、私たち学生とともに普段の学校生活を体験してもらするなど、さまざまなおもてなしを提供します。そして夏季に来た留学生にはねぶた祭りなど夏祭りの参加や、りんごの栽培体験などといった内容で提供し、冬季に来た留学生には雪かきやスキーなど雪を使った体験や、こたつや足湯など寒い土地ならではの体験を提供すればよいと考えます。留学生を呼ぶ際は私たち学生が主となり、留学生の皆さんにたくさん知って、たくさん学ぶことができよかった、青森県にまた来たいと感じてもらえるように頑張りたいと思います。(16)



観光業のまとめとしては、まず空き家を再利用して民泊を運営することによって、通常の宿泊施設より安く宿泊できます。更に東南アジアを中心に留学生を呼び込み宿泊場所にすることができます。そのことによって国際交流の場ができ、結果、青森県民の人材育成にもつながるということとなります。最後に私たちは留学生を通じて、その国の文化や特色を学んでいきたいと思います。(17)

提案 18

- * 30歳になった時に住みたいと思う青森県 ⇒雇用拡大 ⇒農業、観光業におけるさらなる企業力の強化
- * 青森県で子育てしたい⇒グローバル人材の育成 ⇒留学生との交流を活性化させる
- * 他の県や海外に誇れる青森県⇒産業や文化が残る ⇒青森ブランドの確立

30歳になったときに住みたいと思える!

30歳になったとき住みたいと思うためには雇用の拡大をし、農業や観光業における更なる企業力の強化が求められます。また、青森県で子育てをしたいと思われるためにもグローバル人材の育成や、留学生との交流を活性化させることが必要になります。

最後に、他の県や海外に誇れる青森県にするためにも、産業や文化を伸ばし、青森ブランドの確立をすればよいと考えます。このような青森県になれば30歳になったときに、住みたいと思うはずで

(18)

19

私たちにできることは

- * もっと青森県の良さや現状を知る
- * さまざまな視点から青森県を見つめる
- * 地域の行事などに参加し、地域の担い手となる

↓

青森県を活性化させることができる人材になる

このようなことから、今私たちにできることは、今よりもっと青森県のよさや現状を知り、さまざまな視点から青森県を見つめることです。また、地域の行事などに積極的に参加し、地域の担い手となることです。そして、青森県を活性化させることができる人材になるよう、これからも頑張っていきたいと思います。(19) (20)

20

ご清聴有難うございました



【質 疑】

● ^{たなか}田中 ^{みつる}満 議員（国民民主党）

（田中議員）

とても素晴らしい、青森の課題についてすごくよく勉強したなというのが率直な感想であります。現状のところ農産物の生産量が全国で7位というのも出ていました。もう3年連続で3,000億円を超えている農業県であります。あと、民泊のところも、本当にこれからどんどん増えていくのかなというふうに思っていますけれども、今農業をしながら宿泊するという農泊、農家に泊まるというのは東日本大震災の前の水準に戻ってきているというくらい、増えてきている青森でございます。そういう意味でも非常に勉強していろいろ提案していただいたんだというのを、改めて感じたところでございます。

それでは1つ目の質問として、農業従事者を増やすために観光業との連携が必要と提案いただきましたが、具体的にどのような連携を考えているか、お伺いをしたいと思います。

（回答）

例えば、りんごやお米の田植えや収穫体験をしてもらい、農業と観光業の連携を図りたいと考えています。また観光業が活性化すると農業も活性化するので、最終的には雇用の拡大につながると私は考えます。

（田中議員）

ありがとうございます。やっぱりターゲットはさきほど留学生とかという話も出ていましたけれど、外国人ということなのかもしれませんけれども、外国人は採るのがいい人もいれば、採ったのを運ぶのがいいのか、それを食べるのがいいのか、人それぞれ好みもあると思うのでその辺いろんなバージョンというか、パターンもこれからまた研究していただければなと思っておりました。

それから2つ目として、青森県の活性化のために高校生の皆さんが主体となり、留学生に日本の文化や日常生活などを体験してもらおうというようなご提案だったと思いますが、実際に皆さんがするとすれば、どういったおもてなしをするのかということをお教えいただきたいと思っております。

（回答）

私たちの日常生活を通じて、礼儀作法や日本での学校生活を体験してもらいたいです。また、五所川原第一高校ではねぶた祭りで流し踊りを踊っています。その踊り方を留学生の皆さんに教え、祭りにいっしょに参加したいと思っています。

（田中議員）

はい、ありがとうございました。流し踊りですね。実際に外国人の方というのは、そういうのを大好きな方が非常に多いので、そういう意味でもしっかり連携していただければなと思います。さきほど、最後に青森県を活性化させることができる人材になるということ、決意として述べていただいております。皆さんが未来の青森を背負っていただくことをご期待申し上げて、質問とさせていただきます。お疲れ様でした。

（松田議員）

今日のために、いろいろ皆さんお勉強されて、さまざまな問題を提起いただきまして、ありがとうございます。例えばりんご農家さんから直接お話を聞いた、非常にリアルな生産についてのお話だとか、それから私もよく分からなかったのですけれども、りんごが育つ栽培条件とかですね、そういうことまで教えていただきありがとうございます。30歳になっても住みたい青森県をという問題提起をし、大きなテーマの中で、私もそのテーマをずっと日頃考えているものですから、いくつかさらに深い質問になるかと思うのですけれども、お聞きしたいなと思います。

農業に関わる人を増やすために3つほど、ご提案がありました。その中の1つとして6次産業化をさらに促進するというので、そのためには県や自治体、農家の皆さんとの連携を深めることが必要だというご提案でございました。そういう点で行政や議会に対して、どのような役割や支援を皆さん期待されているのかお伺いをしたいと思います。

（回答）

農産業に対して長期的な支援をしてほしいと考えています。そして高校生や若い人たちにも分かるように情報提供をしてほしいと考えています。

（松田議員）

もう1つですが、私たちにできることとして、もっと青森県のいいところや現状を知ることというお話もされておりました。そのために皆さん自身が日頃生活の中でどういったことを行っていくのか、また今後やってみみたいこととして思われていることがあればお伺いしたい。

（回答）

ニュースや新聞を見る機会を増やしたり、インターネットなどを使って青森県のこれからについてもっと調べたいと思います。また、今回のこのような機会をいただき、青森県の現状や課題などに興味を持つことができたので、このように調べて発表する機会を増やしていただきたいと思います。

（松田議員）

どうもありがとうございました。質問にも的確にお答えいただきまして、本当にありがとうございました。今日は3校とも女子生徒の皆さんが圧倒的に多いですけど、是非学校の中でも、また、お友達の中でも男子の生徒さんも大いに巻き込んで、こういう勉強なり議論をしていただいて、みんなが本当に30代になってもこの青森県で生活していきたいと、生きていきたいというふうに思われるような、そういう青森県をつくっていただけることを期待しております。また私たちもそのために議会の中で力を尽くしてまいりたいということを申し上げて終わります。